

事業計画事例～飲食業編 Vol.1 喫茶店

事業計画事例では、開業レポート2012のアンケート調査やインタビュー取材でヒアリングした数字をもとに、起業して成功している会社のリアルな事業計画をサンプルとして作成しました。これから起業・独立する方は是非ご参考ください。

1. 開業資金と開業費用

まずは開業資金と開業費用です。飲食業全般の傾向として、店舗型であれば開業時に大きな初期投資が必要になる。今回の計画書では自己資金700万円に、借入を500万円して合わせて1200万円を開業資金として設定した。

開業費用の内訳は、店舗契約費と前家賃、敷金6カ月で計160万円、内装工事費で300万円、厨房機器・機材などで200万円、食器類・店舗用品で20万、電話・FAX等で10万円、レジなどのOA機器で20万円、初期仕入費100万円、会社設立費用30万円で、合計で850万円。最近では居抜き物件などが安く借りられるケースも多いので、店舗費用はもう少し抑えられそうだが、内装などには投資を惜しまないほうが良いお店になるだろう。

開業資金	1,200万円
内訳	700万円(自己資金)
	500万円(借入)
	万円(その他)

開業費用	850万円
店舗賃貸契約費	20万円
店舗保証金	120万円
店舗前家賃	20万円
事務所・店舗費用(工事費など)	300万円
厨房機器・空調機器など	200万円
店舗用品など	20万円
オフィス用品など	10万円
OA関連機器など	20万円
文具・事務用品など	10万円
その他(初期仕入れ費用)	100万円
会社設立費用・開業諸経費	30万円

2. 売上、経費、利益

	初年度	2年目	3年目	
売上(年間)	1,500万円/年	2,000万円/年	2,500万円/年	
経費 (1カ月単位)	原価	600万円/年 (50万円/月)	792万円/年 (66万円/月)	996万円/年 (83万円/月)
	人件費	万円/年 (5万円/月)	万円/年 (5万円/月)	万円/年 (5万円/月)
	役員報酬	300万円/年 (25万円/月)	300万円/年 (25万円/月)	600万円/年 (50万円/月)
	家賃等	240万円/年 (20万円/月)	240万円/年 (20万円/月)	240万円/年 (20万円/月)
	水道・光熱費	120万円/年 (10万円/月)	120万円/年 (10万円/月)	120万円/年 (10万円/月)
	広告宣伝・販促費	60万円/年 (5万円/月)	60万円/年 (5万円/月)	60万円/年 (5万円/月)
	その他営業諸経費	60万円/年 (5万円/月)	60万円/年 (5万円/月)	60万円/年 (5万円/月)
	借入金の返済	108万円/年 (9万円/月)	108万円/年 (9万円/月)	108万円/年 (9万円/月)
利益	12万円/年	320万円/年	316万円/年	

売上は1年目で1500万円、2年目で2000万、3年目で2500万円という試算にした。

1年目の経費と利益だが、夫婦2人で開業したという想定で、スタッフは雇わず回すとして、人件費がないかわりに、役員報酬として年300万円/月25万円を設定した。これが実質的な人件費・生活費になる。

その他の経費は最も大きいのは原価(仕入れ)で年600万円/月50万円とした。喫茶店などは仕入(コーヒー豆など)の品質が命ともいえるので、原価率は40%と高めの設定だ。あとは家賃が年240万円/月20万円、水道光熱費が年120万/月10万、広告宣伝はチラシを定期的に配布するなどの費用で年60万/月5万。その他営業諸経費が年60万/月5万。また、借入金の返済が毎月9万円程度必要なので、計算すると1年目では収支トントン、なんとか12万円ほどの利益が残る。

飲食店は毎日お金が入るので、運転資金さえ回れば続けられる。2年目、3年目には固定客もついて売上が安定すれば、それなりの利益も残るだろう。あとは役員報酬などの調整でコントロールできる。この計画では、3年目終了時点の安全率が5.48と、余裕のある数字になっている。